



Title	国民社会の研究 第1巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1959-01-18
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/77638">http://hdl.handle.net/2115/77638</a>
Type	manuscript
Note	『鈴木栄太郎著作集7(国民社会学原理ノート)』を出版した際のソースとなった原稿である(同書内での言及による)。
File Information	1003_0135.pdf



[Instructions for use](#)

柏江記録 4

4

NOTE BOOK

Best ruled foolscap  
For colleges and universities

國民社會の歴史

昭和二十三年

一月二十三日

大和  
A5

35

35

○衆の盛衰に從つて○衆の餘土は廣  
く知れたり狭くなつたりす。又○衆  
ル可成す。民族も新らしく併合したり  
増立したりす。然しはと云ふの口  
衆の時々の同一性を現はす要素大  
あつてあるか。

願土夫が加はつたりは否れたりす。場合  
と餘土夫が加はつたりは否れたりす。場  
合かあ。け現とも民族と領土が一  
緒に加はつたりは否れたりす。場合け  
あつて民族夫が加はつたりは否れ  
りす。場合否の様に思ふ。民族

は土地に固着して居るのである。  
古代ケルマンの様に古代には民族の  
大移動もあつたのであるが、古代の民  
族移動は侵略移動であつて、既存  
の国の中へ来り加はよと云ふので、所をか  
へてあつた。移動して来た民族は  
そこにあつた既存の国を七ぼしてそこ  
に居る民族を奴隷化して新しく口  
家をそこに構へたのである。  
又土地に住む民族の中に一度口家  
が成立すれば、そのまゝに存続するか、  
その土地はその民族を食ふたゞ、他の口

京に併呑されたり、土地の一部が京の上  
の人民をのせたまゝ併呑されたりす。  
民族は土地に根をおろして居るのであ  
らう。併呑される土地の住民は土地と  
昔に甲の國家より乙の國家に轉轄  
すものである。

どの國家でも曾て國家的統一が生  
じて以來、國家統治の空白の時  
は有らなかつた。甲の面積を乙の面積  
者の争ひ亂のりた統治は混亂し  
強と空白の時も有らなかつた。  
けれども國家は狼の法下にある。

か虎の法下にあよかの別はあつても  
狼も虎も丹ない口民文の時子  
は強と持て事はないであらう。  
狼と虎が共に自口内では主権者の  
地位を争ふ場合と共口外の火  
能が自口を征伐して自守を維持  
の法下にある場合とあつてあつて  
けれとしはかかどにかから次第に  
因に社上文字を携て居る民権は自口の能統一  
断絶するものなり。統治して来たもの  
と云ひたしてあつて。  
統治を絶つてあつてなく治すべくに去職し  
たのは何故であらうか。統治者の地位

は五七税變力的であるからである。

被統治者は常に統治者に屈伏

して居る者が愚人昧に統治を

盲化して居るからである。

政治は常に奸智に在ける悪党の

なすもので、奸計威脅はその常態

である。己の地位を厚く爲すは如何

なる事か、思ふに謀略と詐せり、利権

の争ひは父子兄弟親友の情義をへい

履に染し、而かも被治者の統治の内容

には常に公正を基準と情義を高

しとする。

漢北子の字向てあるか、如魚は室  
付を収む、箱の鍵のゆゑか、らんを  
望むか、大魚は鍵のかたを判し  
箱のまゝで奪はんや。法者か  
民に道義の高きを教へよ、は鍵  
のかたを判し、新せんをす。るべし。



